

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス リッケ			
○保護者評価実施期間	2025/2/20		～	2025/3/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3 2 名	(回答者数)	3 2 名
○従業者評価実施期間	2025/2/20		～	2025/3/20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/3/31			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目① こどもの活動等のスペースを十分に確保し、生活空間が清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、こども達の活動に合わせた空間となっている。	室内は指定基準以上の面積を確保していることに加えて、園庭が広いため施設環境が強みになっている。 衛生面、清潔面に関しても意識的に取り組んでおり、「自分が利用者だったら」「自分の家族が利用児童だったら」の視点を持ち常に、心地よく過ごせる空間作りを心がけている。	今後も清潔で心地よい空間を保つために、日々の清掃や衛生管理を徹底する。職員が対応できない専門的な設備メンテナンスや設備管理をそのままにせず適切に専門業者に依頼していく。
2	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目② こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われている。	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目② こどものことを理解するための信頼関係作り→アセスメントを徹底する。細かくとったアセスメントを活用した実践できる支援計画をガイドラインに沿って立てることを意識している。	より専門性を高めるために今いる職員の質の向上に加えて、新たな職員の専門性も追加して常にアップデートしていく。 具体的には、行政の法定研修(児童発達支援管理責任者研修基礎実践、強度行動障害支者研修基礎実践、その他)への派遣や民間の研修システムの活用や国家資格取得の補助。
3	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目③ 多くのこどもたちが、職員や他児童とふれあいながら楽しく過ごしており、保護者が支援に満足している。	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目③ こどもが安心感を持って通所できるために、職員の心理的安全性も必要だと考えている。職場環境を管理者、職員共に考えて子どもの支援にエネルギーを注げるように意識している。	現在の状態を更に良くするために、常にこどもが中心になる支援の軸がブレないように日々初心に返り、支援理念を意識し続ける。 また、こどもや保護者や安心して利用できるように、安全面を徹底して当たり前のことを見落とさずに支援の土台を安定させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等	こどもへの支援を優先度が高くなってしまい、保護者会等の時間や計画が確保できない。	具体的には保護者に有益な情報や研修の内容を収集して保護者に共有するなど。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援	保護者会を開催するにあたり、保護者が子どもを一人にできないこともあるので、児童の対応と保護者会の運営を同時に行うことへの計画の難しさが課題。	ボランティアや他事業者からの協力を得て、児童を見守りつつ保護者会を開催できるような計画が必要。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が持ちにくい	児童館や学童クラブとつながる機会がないため、交流の機会を持てていない。	公園や商業施設の利用等、地域のこどもも含めた地域住民と同じ場所を利用することも多いので、その際に交流やコミュニケーションを図るとともに、活動として交流の機会を今後検討していく必要がある。 児童館は地域の児童として利用することで交流が持てると思っている。